

その5 春日

(平成5年2月1日号—第162号)

J R津田駅から西へ進むと、間もなく春日地域に入ります。春日は、中世末期に津田山麓の畠田[はただ]村に住んでいた住民が移住してできた村といわれています。

平地の真ん中にあるため、村落の周りを濠[ほり]で囲んだ環濠[かんごう]集落として発達し、今でも集落を歩くと幅の広い水路が残っていて^{*1}、当時の様子がしのべられます。貴重な水源としての河川から遠く離れた春日にとって、水の確保は死活問題であり、濠は村落を外敵から守るだけではなく、かんがい用水としても使われてきました。水を逃さないようにするための人工のため池も、多く見られます。



現在、春日西町には枚方市営水道の春日受水場があり、3万トンもの飲料水をためることができます。水の確保で苦労していた昔の住民のことを思えば、時代の流れとはいえ不思議な気がします。この受水池の地表部分は、テニスコートに整備され、多くの市民に利用されています。

7 春日神社(春日元町1丁目)

^{*1} 春日神社の南・西を通る水路も環濠の名残か。